

インストールおよびアップグレード	2
サポートの変更	3
テクニカルプレビュー	3
廃止	6
保留	7
10.5 の修正された問題と実装された拡張要求	7
アプリケーションサービスの修正された問題 (10.5)	7
Business Glossary 修正された問題 (10.5)	8
Data Engineering Integration の修正された問題 (10.5)	8
Data Engineering Streaming の修正された問題 (10.5)	11
Data Privacy Management の修正された問題と実装された拡張要求 (10.5)	12
ドメインの修正された問題	14
Enterprise Data Catalog の修正された問題と実装された拡張要求 (10.5)	15
Enterprise Data Preparation の修正された問題 (10.5)	18
例外管理修正された問題 (10.5)	19
インストールおよびアップグレード修正された問題 (10.5)	19
Informatica Analyst の解消された制限事項と実装された拡張要求 (10.5)	19
マッピングおよびワークフローの修正された問題 (10.5)	20
Metadata Manager の修正された問題と実装された拡張要求 (10.5)	20
PowerCenter の修正された問題と実装された拡張要求 (10.5)	21
プロファイルおよびスコアカード修正された問題 (10.5)	22
Test Data Management 修正された問題 (10.5)	23
サードパーティ製品の修正済みの問題 (10.5)	24
10.5 の既知の問題	25
Data Engineering Integration の既知の問題 (10.5)	25
Data Engineering Streaming の既知の問題 (10.5)	27
Data Privacy Management 既知の問題 (10.5)	28
ドメインの既知の問題 (10.5)	28
Enterprise Data Catalog の既知の問題 (10.5)	28
Enterprise Data Preparation の既知の問題 (10.5)	32
マッピングおよびワークフローの既知の問題 (10.5)	33

PowerCenter の既知の問題 (10.5)	33
プロファイルおよびスコアカード既知の問題 (10.5)	34
サードパーティ製品に関する既知の問題 (10.5)	34
インストールおよびアップグレード既知の問題 (10.5)	35
累積的な既知の問題.....	35
Data Engineering Integration の既知の問題 (累積)	35
Data Engineering Streaming の既知の問題 (累積)	36
プロファイルおよびスコアカードの既知の制限事項 (累積)	37
サードパーティ製品に関する既知の問題 (累積)	37
10.5 に統合された緊急バグ修正.....	39

バージョン 10.5 に関連する既知の制限事項および修正の詳細については、『*Informatica® のリリースノート*』を参照してください。リリースノートには、アップグレードパス、EBF、およびテクニカルレビューや保留事項などの限定的なサポートに関する情報も含まれています。

インストールおよびアップグレード

バージョン 10.5 でのインストールとアップグレードについては、この節を確認してください。

[/etc/sudoers ファイルの更新](#)

UNIX または Linux にインストールまたはアップグレードする前に、インストーラを実行するユーザーに基づいて **/etc/sudoers** ファイルの NOPASSWD エントリを更新します。インストーラは、オペレーティングシステムユーザーまたは wheel グループに属するユーザーとして実行できます。

オペレーティングシステムユーザーの場合は、次の NOPASSWD エントリを設定します。

```
<operating system user> ALL=(ALL) NOPASSWD: ALL
```

wheel グループに属している場合は、次の NOPASSWD エントリを設定します。

```
%wheel ALL=(ALL) NOPASSWD:ALL
```

[メタデータアクセスサービス](#)

Informatica インストーラが、カスタム SSL ドメイン用のメタデータアクセスサービスの作成に失敗する。

回避策: Informatica のインストールを開始する前に、セッションで次の環境変数を設定します。

- INFA_TRUSTSTORE
- INFA_TRUSTSTORE_PASSWORD

[Enterprise Data Preparation サービスとインタラクティブデータ準備サービス](#)

Enterprise Data Preparation をサイレントモードでインストールすると、インストーラが Enterprise Data Preparation サービスとインタラクティブデータ準備サービスの作成に失敗する。次のサンプルのようなエラーが表示される場合があります: [ICMD_10033] コマンド[createService]がエラーで失敗しました。エラー[[IDL_CMD_10038]のため、サービスを作成できません。[MaxConcurrentUploadAndDownload]プロパティは有効な整数ではありません。]

この問題を回避するには、次のタスクを完了してサービスを作成します。

- インストール後に、Administrator ツールを使用して Enterprise Data Preparation サービスを作成します。サービスの作成中に、[詳細オプション] > [最大同時アップロード/ダウンロードアクティビティ] で整数値を追加します。
- インタラクティブデータ準備サービスを作成するには、サイレント入力プロパティファイルを設定し、DPS_SERVICE_NAME キーの名前を DPS_DIS_SERVICE_NAME に変更して、[詳細オプション] で関連付けの値としてデータ統合サービス名を指定します。(IDL-18306)

手順については、『Enterprise Data Preparation インストールガイド』を参照してください。

サポートの変更

バージョン 10.5 でのサポートの変更については、このセクションを参照してください。

テクニカルプレビュー

バージョン 10.5 で開始または除去されたテクニカルプレビュー機能について確認するには、このセクションを参照してください。

開始されたテクニカルプレビュー

バージョン 10.5 では、テクニカルプレビューで次の機能を使用できます。

データフロー分析

Data Flow Analytics を使用して、カタログ内の PowerCenter マッピングに関する分析データを表示できます。このデータを使用して、企業のマッピングの品質と効率を向上させることができます。理解しやすくするために、マッピングを図として表示することもできます。

分析データには、次のマッピングメトリックに関する詳細が含まれます。

- 類似するマッピング
- 重複するマッピング
- 複合式用の再利用可能なマップレット、トランスフォーメーション、およびユーザー関数

さらに、このデータには、マッピンググループの詳細とマッピング検出の詳細も含まれており、マッピングデータから追加の洞察を得ることができます。分析データをレポートとしてダウンロードしてさらに詳しく分析したり、サードパーティのレポートソリューションを使用してレポートを拡張したりすることができます。

詳細については、『Enterprise Data Catalog 10.5 ユーザーガイド』を参照してください。

グラフィカルな Informatica インストーラ

Linux プラットフォームに PowerCenter と Data Engineering Integration をインストールする場合に、グラフィカルなユーザーインタフェースベースのインストーラを使用できます。このインストーラには、インストール前 (i10Pi) システムチェックツールを実行し、Informatica ドメインをインストールして、ドメインとアプリケーションサービスを設定するための簡単かつインタラクティブなインタフェースが用意されています。

Kubernetes クラスターの Informatica ドメイン

Informatica ドメインは、Microsoft Azure Kubernetes クラスターで実行できます。データ統合サービスや PowerCenter 統合サービスなどのアクティブ-アクティブサービスの自動スケーリングがサポートされています。

詳細については、『*Informatica Deployment Manager を使用した Kubernetes への PowerCenter のインストール*』または『*Informatica Deployment Manager を使用した Kubernetes への Data Engineering Integration のインストール*』を参照してください。

XSD ファイルに基づくインテリジェント構造モデル

インテリジェント構造モデルを作成するときに、モデルのベースとなる XSD ファイルを選択できます。

Blaze エンジンのマッピング監査

Blaze エンジンで、監査ルールと条件を使用してマッピングを実行できます。

詳細については、『*Data Engineering Integration 10.5 ユーザーガイド*』を参照してください。

PowerExchange for Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2

テクニカルプレビューでは、次の機能を使用できます。

- ネイティブ環境または Spark エンジンの Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 のサブディレクトリに格納されているオブジェクトを読み取ることができます。
- ネイティブ環境または Spark エンジンでフラットファイルまたは複合ファイルからデータを読み取る場合に、ワイルドカード文字を使用してソースディレクトリ名またはソースファイル名を指定できます。

テクニカルプレビュー機能は評価を目的としてサポートされていますが、保証対象外で、本番環境または本番環境にプッシュする予定の環境には対応していません。Informatica は、本番環境用の今後のリリースにプレビュー機能を含める予定ですが、市場や技術的な状況の変化に応じて導入を行わない場合もあります。詳細については、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

テクニカルプレビューが昇格

バージョン 10.5 では、次の機能がテクニカルプレビューから除去されています。

カタログのバックアップ

Enterprise Data Catalog の場合、カタログサービスを無効にすることなくカタログをバックアップできます。カタログは、REST API、Enterprise Data Catalog インタフェース、または Catalog Administrator を使用してバックアップできます。詳細については、『*Informatica 10.5 Catalog Administrator ガイド*』または『*Informatica 10.5 Enterprise Data Catalog ユーザーガイド*』の「カタログのバックアップおよびログ収集ユーティリティ」のセクションを参照してください。

Cloudera CDP の統合

Data Engineering Integration の場合、Cloudera Data Platform (CDP) を計算クラスターとして使用して、Hadoop 環境でデータエンジニアリングジョブを実行できます。Spark エンジンでデータエンジニアリングジョブを実行する場合に Cloudera CDP を使用できます。Cloudera CDP は、ベースクラスターとワークロードクラスターを使用してデータエンジニアリングジョブを実行します。このアーキテクチャでは、共有カタログ、統合セキュリティ、一貫したガバナンス、およびデータライフサイクル管理を利用して、ワークロードをデプロイし、コンポーネント間でデータを共有できます。

次の接続を使用して Hadoop 環境でマッピングを実行する場合、Cloudera CDP を使用できます。

- PowerExchange for Google Cloud Storage
- PowerExchange for Google BigQuery
- PowerExchange for Google Analytics
- PowerExchange for Google Cloud Spanner

詳細については、『*Data Engineering 10.5 統合ガイド*』を参照してください。

コンパクトビュー

[リネージュと影響] ビューのコンパクトビューを表示することができます。コンパクトな [リネージュと影響] ビューには、リソースレベルの概要を示すリネージュと影響の図が表示されます。

詳細については、『*Informatica 10.5 Enterprise Data Catalog ユーザーガイド*』の「リネージュと影響の表示」の章を参照してください。

Amazon S3 および Azure Data Lake Storage Gen2 ターゲットのロールオーバーパラメータ

Data Engineering Streaming の場合、Amazon S3 および Azure Data Lake Storage Gen2 ターゲットに異なるロールオーバーパラメータを使用して、各ターゲットのロールオーバー時間またはサイズを指定できます。詳細については、『*Data Engineering Streaming 10.5 ユーザーガイド*』を参照してください。

SAP S/4HANA リソース

Enterprise Data Catalog の場合、SAP S/4HANA データソースからメタデータを抽出できます。詳細については、『*Enterprise Data Catalog 10.5 スキャナ設定ガイド*』を参照してください。

サービスログおよびリソースログの収集

Enterprise Data Catalog の場合、リソースのログを収集できます。さらに、次のようなサービスのログを収集できます。

- カタログサービス、Informatica クラスタサービス、EBF の履歴、PhoneHome などの Enterprise Data Catalog サービス
- Apache Solr
- MongoDB
- Nomad オーケストレーションサービスとスキャンジョブ
- Apache ZooKeeper
- Postgres

REST API、Enterprise Data Catalog インタフェース、または Catalog Administrator を使用して、ログを収集できます。詳細については、『*Informatica 10.5 Catalog Administrator ガイド*』または『*Informatica 10.5 Enterprise Data Catalog ユーザーガイド*』の「カタログのバックアップおよびログ収集ユーティリティ」のセクションを参照してください。

一意のキー推測

ソースデータオブジェクト内のカラムから一意のキー候補を生成できます。一意のキー推測の結果を表示して、重複する値を持ったカラムを特定することで、データ品質の問題を理解できます。推測済みの一意のキー推測の結果は、承認または拒否できます。推測済みの一意のキー推測を承認または拒否した後に、一意のキー推測をリセットして、推測済み状態に戻すことができます。

詳細については、『*Informatica 10.4.0 Enterprise Data Catalog ユーザーガイド*』の「アセットの表示」の章を参照してください。

廃止

バージョン 10.5 では、次の機能は廃止されました。

Hadoop クラスタへの Enterprise Data Catalog のインストール

バージョン 10.5 では、Hadoop クラスタに Enterprise Data Catalog をインストールすることはできません。

詳細については、『*Enterprise Data Catalog 用の Informatica 10.5 のインストール*』を参照してください。

カラムレベルでのデータリネージュの抽出

バージョン 10.5 では、Oracle および SQL Server のストアードプロシージャのカラムレベルでデータリネージュを抽出する機能は廃止されました。この機能は、Enterprise Data Catalog の今後のリリースで削除される予定です。

詳細スキャナを使用して、Oracle および SQL Server のストアードプロシージャのカラムレベルでデータリネージュを抽出することをお勧めします。

詳細については、『*Enterprise Data Catalog 詳細スキャナ管理者ガイド*』を参照してください。

カラムレベルでのデータリネージュのメタデータの抽出

バージョン 10.5 では、次のデータソースからのトランスフォーメーションロジックを含むカラムレベルでデータリネージュのメタデータを抽出する機能は廃止されました。この機能は、Enterprise Data Catalog の今後のリリースで削除される予定です。

- Oracle Data Integrator データソース
- IBM InfoSphere DataStage データソース

詳細スキャナを使用して、Oracle Data Integrator データソースおよび IBM InfoSphere DataStage データソースのカラムレベルでデータリネージュのメタデータを抽出することをお勧めします。

詳細については、『*Enterprise Data Catalog 詳細スキャナ管理者ガイド*』を参照してください。

compareMapping DIS コマンド

バージョン 10.5 では、infacmd dis compareMapping は廃止されました。このコマンドは今後のリリースで削除される予定です。

infacmd dis compareMapping に基づくスクリプトを使用している場合は、新しい infacmd dis compareObject コマンドを使用してスクリプトを更新することをお勧めします。廃止された機能はサポートされていますが、今後のリリースではサポートも廃止される予定です。この機能が廃止される前に、別の機能に移行するようお願いいたします。

ユニバーサル接続フレームワーク

バージョン 10.5 では、ユニバーサル接続フレームワークのサポートは廃止されました。詳細については、[Informatica Global Customer Support](#) にお問い合わせください。

保留

バージョン 10.5 では、Cloudera CDH 6.3 は保留されています。

保留された機能は、現在のリリースでは使用できないか、サポートされていません。保留された機能は今後再開される予定ですが、市場や技術的な状況の変化によっては利用できないままとなる場合があります。

10.5 の修正された問題と実装された拡張要求

アプリケーションサービスの修正された問題（10.5）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
MRS-2373	MRX_PDO 外部ビューで所有者名を表示できない。
PLAT-27478	LDAP 同期の実行中に、LDAP 接続に含まれている LDAP 名前空間を削除すると、Informatica が <code>AssertionError in SynchronizeNamespaceTask</code> エラーをログに記録し、ドメインがシャットダウンする。
PLAT-27380	マッピングを含むワークフローを実行すると、監視モデルリポジトリサービスが無効になっている場合でも、監視モデルリポジトリサービスの接続例外がデータ統合サービスログに記録される。
PLAT-26720	Administrator ツール、 <code>infacmd convertLog</code> コマンド、または <code>infacmd GetLog</code> コマンドを使用してサービスログを取得すると、ログファイルに誤ったタイムスタンプが表示される。
SS-74	検索サービスのデバッグログを有効にすると、オブジェクトのインデックス作成に長時間かかる。
PLAT-27305	SAML シングルサインオン（SSO）を有効にすると、 <code>ServiceProviderId (-spid)</code> に「&」記号が含まれている場合に解析が失敗する。
MRS-2284	モデルリポジトリサービスのフェイルオーバーが発生しない場合に、サービスがバックアップノードで起動に失敗する。この問題は、モデルリポジトリサービスがプライマリノードで強制終了され、ロックファイルが H2 データベースに存在するために発生します。
SS-52	検索サービスの <code>ServiceContext</code> オブジェクトの値が <code>NULL</code> の場合、このサービスは <code>NULL</code> ポインタの例外エラーで開始に失敗する。
SS-139	ドメイン内のすべてのアナリストサービスに対する読み取り権限がない場合、検索サービスが開始に失敗する。この問題は、起動時に、検索サービスがドメイン内の各アナリストサービスに対して、検索サービスに関連付けられているかどうかに関係なく接続しようとするために発生します。
SS-137	カスタマイズされた Hive データオブジェクト、および配列、構造、マップのデータ型を持つオブジェクトの検索インデックス作成が失敗する。

問題	説明
BDM-36328	エンタープライズ検出プロファイルで、Enterprise Data Catalog リソースでプロファイリングを有効にして同時ジョブを実行してからジョブをキャンセルすると、DTM プロセスがハングする。
BDM-31366	電子メールサービスが、TLS バージョン 1.2 を使用する SMTP サーバーへの接続に失敗する。

Business Glossary 修正された問題（10.5）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
BG-2519	エクスポートオプションとインポートオプションを使用して Business Glossary の用語とルールを別の環境に移行すると、用語集のビジネス用語とルールの関連付けが失われる。
BG-2136	Analyst ツールが、Business Glossary のドット (.) 文字を含む用語 ID を、Metadata Manager へのアセットリンクとして誤って解釈する。
BG-2032	ビジネス用語テンプレートに誤ったメタクラス ID を持つカスタム属性が含まれている場合に、ビジネス用語に新しいルールまたはカテゴリを追加できない。
BG-1838	Business Glossary テンプレートをエクスポートすると、ページの応答が停止し、Analyst ツールのログファイルに次のエラーメッセージが表示される: [root@adwde01 bin] # ./infacmd.sh bg exportGlossary -dn Domain -un Administrator -pd ***** -sdn Native -atn EIC_Analyst_Service -gl Ace Business Glossary -ah false -tem true -att false -ep /apps1/Informatica/10.2.1/isp/bin [ICMD_10033] コマンド[exportGlossary]がエラー[[BGCMD_0101]エラー: '[BGCMD_0101]エラー: 内部エラー: ']]で失敗しました。
BG-1034	管理者ロールで設定されたユーザーに対して、検索サービスにビジネス用語の結果が表示されない。

Data Engineering Integration の修正された問題（10.5）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
PLAT-27952	SAML 要求で AuthnContextClassRef を未指定に設定できない。
OCON-27284	カスタムクエリで複数のテーブルを指定すると、Sqoop マッピングが失敗する。
CORE-8958	Cloudera CDP クラスタで Hive ソースから読み取りを行うマッピングを実行すると、次のエラーでマッピングが失敗する。 java.lang.NoClassDefFoundError: org/apache/jute/Record

問題	説明
BDM-37291	Blaze エンジンで、Java トランスフォーメーションを使用してマッピングを実行すると、次のエラーメッセージが表示される。 次のサイズのブロックを配置するための十分な残りの容量がありません
BDM-37177	日数が異なる月からデータを減算または加算すると、ネイティブエンジンと Spark エンジンで ADD_TO_DATE 関数が異なる結果を返す。例えば、2021 年 3 月 31 日からひと月を差し引いた場合の結果は 2021 年 2 月 28 日となりますが、2021 年 3 月 3 日という値が返されていました。
BDM-36786	applicationInfoImpl オブジェクトの削除が失敗してヒープサイズが拡大すると、データ統合サービスでメモリリークが発生する。
BDM-36445 BDM-36513	Data Lake 上の拒否ファイルが、Spark エンジンおよび Blaze エンジンでサポートされない。
BDM-36047	データ統合サービスのログで、DTM ID の情報からマッピング名情報までが欠落している。
BDM-35868	10.2x からのアップグレード後、マッピングのパフォーマンスが低下する。
BDM-35667	Spark エンジンがマッピングを実行すると、マッピングが次のようなエラーで失敗する。 SEVERE: 次のエラーにより、データ統合サービスが DTM インスタンスの作成に失敗しました: java.lang.UnsupportedOperationException: PARAM_READ ...
BDM-35624	Spark が接続されたルックアップトランスフォーメーションを使用してマッピングを実行すると、マッピングが org.apache.spark.sql.AnalysisException などのエラーで失敗する。
BDM-35539	Date データ型を含む Parquet ターゲットを使用して Blaze エンジンが 3.1.5 以前の Hortonworks クラスタバージョンでマッピングを実行すると、マッピングによって誤った TIMESTAMP データがターゲットに書き込まれる。
BDM-35505	同時ワークフロー実行時に、「java.lang.IllegalArgumentException: パラメータ'directory'はディレクトリではありません」というエラーで一時クラスタの作成が失敗する。
BDM-35493	多数の小さなマッピングをキャンセルすると、DTM プロセスがハングし、プロファイルジョブの実行がブロックされる。
BDM-35466	Blaze エンジンが AWS 上の Cloudera CDP Public Cloud クラスタでマッピングを実行すると、マッピングが失敗して次のエラーが発生する場合がある。 [GRIDDTM_1016] The Integration Service failed to execute grid mapping with following error [An internal exception occurred with message: java.lang.IllegalStateException: Authentication with IDBroker failed. Please ensure you have a Kerberos token by using kinit. マッピングは、次のいずれかの条件に該当する場合に失敗します。 - マッピングが Hive テーブルから読み取ってフラットファイルに書き込む。 - マッピングで AmazonS3 接続が使用されている。

問題	説明
BDM-35459	電子メール通信がない場合でも、電子メールサービスが 20 秒ごとに繰り返し通知を送信する。
BDM-34663	Hortonworks HDP 3.1 クラスタで【個別選択】が有効な状態で、Hive ソースを使用して Spark エンジンがマッピングを実行すると、Hive ステージングテーブルを作成する SQL ステートメントが正しくないためにマッピングが失敗する。
BDM-34540	Hortonworks HDP 3.1 クラスタ上で SORT 句を使用して作成された Hive ソースを使用して Spark エンジンがマッピングを実行すると、Hive ステージングテーブル用の SQL ステートメントが正しくないためにマッピングが失敗する。
BDM-34036	ClouderaCDP クラスタ上で Spark エンジンがマッピングまたはデータのプレビューを実行すると、日付が 1583 年よりも前で、マッピングによって次のいずれかのソースが使用されている場合に、ジョブによって誤った日付/時刻データがターゲットに書き込まれる。 <ul style="list-style-type: none"> - Azure Blob - Google BigQuery - JDBC V2 - Sqoop - 複合ファイルオブジェクト
BDM-33915	Blaze エンジンで、圧縮されたテキスト形式の Hive テーブルのルックアップを実行すると、マッピングが次のエラーで失敗する: 「[CORE_3] 次のメッセージで内部例外が発生しました: java.io.IOException: 不正なヘッダーチェック java.io.IOException: 不正なヘッダーチェック」
BDM-33914	Blaze エンジンで、変更されたテキスト形式の Hive パーティションテーブルを読み取ると、ソースの読み取りが次のエラーで失敗する: 「[CORE_3] 次のメッセージで内部例外が発生しました: java.lang.RuntimeException: パーティション状態のデータが見つかりませんでした java.lang.RuntimeException: パーティション状態のデータが見つかりませんでした」
BDM-33784	SPARK エンジンでのマッピングが「メモリ不足」エラーメッセージで失敗する。
BDM-33713	次の状況で、ジョイナトランスフォーメーションを使用して結合するソースとして Hive テーブルと Oracle テーブルを作成すると、マッピングが失敗する。 <ul style="list-style-type: none"> - マッピングパイプラインでアップデートストラテジトランスフォーメーションを使用して、必要なポートをすべてのターゲットに接続する場合。 - Hive ソースから少数のポートのみをプロパゲートする場合。
BDM-30668	LogPacker が、内部での infacco-site.xml または CCO エクスポートの収集に失敗する。
BDM-30664	マッピングが Hive テーブルからシーケンスジェネレータ、式、および 2 つの異なるターゲットへの読み取りを行った場合、2 つのターゲットで異なる値が取得される。
BDM-27878	高可用性およびフェイルオーバーで電子メールサービスを使用できない。

問題	説明
BDM-23317	ファイルベースのキューを使用して設定されたデータ統合サービスの統計の監視を行うと、ジョブがキューに追加された状態でも、ジョブが実行中であると表示される。
BDM-23221	LDTM の作成後にセッションを開始すると、Informatica 製品のバージョン番号がセッションログファイルに表示されない。
BDM-22677	インストール中に Cloudera CDP クラスタ構成と接続を作成すると、インストーラでの Hadoop 接続に Tez ではなくデフォルトのエンジンタイプ MRv2 が使用される。
BDM-21820	データ統合サービスのワークフローで実行中のいずれかのコマンドタスクが SIGTTOU を受信すると、データ統合サービスのプロセスが停止する。

Data Engineering Streaming の修正された問題 (10.5)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IIS-5295	Avro ペイロードと複合ファイルデータオブジェクトターゲットを持つ Confluent Kafka ソースを含んだストリーミングマッピングを実行すると、誤った形式/無効な Avro レコードというエラーでマッピングが失敗する。このエラーは、スキーマとソースデータが同期されているにもかかわらず、KafkaAvroSerializer から送信されたメッセージをマッピングが使用できないために発生します。
IIS-5181	Azure HDInsight バージョン 4.1 で、カスタムチェックポイントディレクトリが設定された複数の JMS ソースを使用してストリーミングマッピングを実行すると、再起動時に次のエラーでマッピングが失敗する。 ERROR MicroBatchExecution: Query Write_cl_task_update [id = 934e2c43-219a-4245-808a-44e66138d9aa, runId = ab818a5a-4a83-4ebb-8e02-13472def8182] terminated with error java.lang.IllegalStateException: batch 2 doesn't exist at org.apache.spark.sql.execution.streaming.HDFSMetadataLog\$.verifyBatchIds(HDFSMetadataLog.scala:470)
IIS-5100	Avro データ形式の Kafka のソースとターゲットを使用してストリーミングマッピングを実行すると、ターゲットファイルに書き込まれたデータによって誤ったデータ型が追加される。
IIS-4985	Kafka あるいは Confluent Kafka ソースと Kafka、Confluent Kafka、または HDFS ターゲットを使用したストリーミングマッピングで、次の条件に該当する場合にマッピングが失敗する。 - ターゲットスキーマの形式がフラットである - ターゲットで 【マッピングフロー】 オプションが有効になっている マッピングが失敗して、次のエラーが表示されます: Error: Mapping is failed. Lost task 0.1 in stage 0.0 (TID 1,inbdsrh74qa01.informatica.com, executor 1): java.util.NoSuchElementException: next on empty iterator at scala.collection.Iterator\$\$anon\$2.next(Iterator.scala:39)

問題	説明
IIS-4927	Kafka ソースおよび JDBC ターゲットの Teradata コネクタを使用してストリーミングマッピングを実行すると、「[Error 1382] [SQLState HY000]バッチが空です。」というエラーでマッピングが失敗する。
IIS-4921	Cloudera CDP バージョン 7.1.1 で Kafka ソースと HDFS ターゲットを使用してストリーミングマッピングを実行すると、次の条件に該当する場合、コンパイルエラーでマッピングが失敗する。 <ul style="list-style-type: none"> - トピック名がファイル名ポートにリンクされ、データがデータポートにリンクされている - ソースで動的ストラテジが有効になっている - マッピングの実行時プロパティが、infaspark.hive.impersonated.complexfile.write=true として設定されている
IIS-4773	JMS をソースとして使用して、複数のターゲットおよび継続サブスクリプションが設定されたストリーミングマッピングを実行すると、データが失われる。
IIS-4680	Databricks クラスタで、論理データ型が Parquet 形式に適用されず、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 ターゲットへの書き込みを行うと、無効な Avro レコードというエラーが表示される。
IIS-4666	動的ポートを使用してソースをウィンドウトランスフォーメーションに接続すると、マッピングの検証が失敗する。
IIS-4632	Kafka ソースを使用してストリーミングマッピングを実行すると、次の条件に該当する場合に InvalidTopicName エラーでマッピングが失敗する。 <ul style="list-style-type: none"> - トピック名にトピックパターンが指定されている。 - カスタムタイムスタンプオフセットに基づいてメッセージを読み取るためのタイムスタンプが指定されている。
IIS-4619	Kafka ソースを使用してストリーミングマッピングを実行すると、次の場合に WARN KafkaOffsetReader: Kafka オフセットの取得試行 1 のエラーというエラーが発生して、マッピングが失敗する。 <ul style="list-style-type: none"> - トピックに複数のパーティションが含まれている。 - カスタムタイムスタンプオフセットに基づいてメッセージを読み取るためのタイムスタンプが指定されている。
IIS-4600	AWS Databricks でストリーミングマッピングを実行してバイナリデータを Amazon S3 ターゲットに書き込むと、マッピングは検証されるが Spark 実行プランの生成の試行時に失敗する。

Data Privacy Management の修正された問題と実装された拡張要求 (10.5)

修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
SATS-39840	マルチノードドメインで、他のサービスとは異なるノードで Data Privacy Management サービスを実行すると、サービスの [プロセス] タブが更新されない。
SATS-39666	データベースプロファイルジョブが完了しない。

問題	説明
SATS-39422	自動同期カタログジョブが失敗すると、それ以降に起動されたすべてのジョブが失敗する。
SATS-39242	ユーザーのホームの場所とデータストアグループに基づいて、ユーザーアクティビティモニタリングによって誤ったセキュリティポリシー違反が生成される。
SATS-39232	セキュリティポリシーにパーセンテージまたは値の変更を伴う条件が含まれている場合に、UBA Manager が失敗する。
SATS-39209	Hive ソースの行数の収集ジョブステップに、機密としてマークされていない行が含まれる。
SATS-38568	説明に「ソフトウェアの更新」という単語が含まれている場合に、ユーザーグループのインポートジョブが失敗する。
SATS-38524	ユーザーアクティビティイベントで想定される処理が行われず、Augmenter アプリケーションエラーが発生する。
SATS-38121	スキャンまたは分類ポリシーの評価ジョブを実行すると、データストアタグが切り詰められる。
SATS-38119	非構造化ソースでのスキャンが、分類ポリシーの評価ジョブのステップで停止する。
SATS-38053	長さが 255 文字を超える Hive JDBC URL を使用できない。
SATS-37868	保護ステータスのインポートジョブで、機密としてマークされていないカラムがスキップされる。
SATS-37685	データストアの「スキーマ名」フィールドで、フィールド長の制限により、必要なすべてのスキーマを選択できない。
SATS-37684	サブジェクトレジストリにパフォーマンスの問題が発生する。
SATS-37682	データストアの詳細をエクスポートすると、保護ステータスをインポートする場合の必須のフィールドであるにもかかわらず、「信頼レベル」フィールドが CSV ファイルに含まれない。
SATS-37436	Data Lake Storage Gen 2 ではなく Gen 1 で接続を作成した場合に、Data Lake Store Gen 2 ADLS ソースタイプを使用した Azure Data Lake データストアの Enterprise Data Catalog スキャンが失敗する。 回避策: Informatica Administrator で接続を作成し、Data Privacy Management のデータストア作成ページの「ソース接続名」フィールドに ID 値を入力します。
SATS-31712	「ワークフローあたりのテーブル数」と「最大パラレルセッション数」の値が「保護タスク」ページに表示されない。
SATS-31709	保護タスクがタイムアウトエラーで失敗する。
SATS-31661	ROW_MATCH_COUNT が Java 整数の制限を超えている場合に、カタログのロードジョブステップが失敗する。
SATS-31658	FILE_PATH に 255 文字を超える文字が含まれている場合に、リモートエージェントを使用するスキャンが失敗する。

問題	説明
SATS-31656	分類ポリシーの評価ジョブが実行されず、新規状態のままになる。
SATS-31653	サブジェクト名にカンマが含まれている場合に、DSAR レポートをダウンロードできない。
SATS-31535	ZooKeeper URL にカンマ区切りの JDBC URL が含まれている場合に、Hive テスト接続が失敗する。
SATS-31534	エラスティック検索アプリケーションを特定の YARN キューに割り当てできない。
SATS-30680	以前のバージョンでサブジェクトレジストリを作成していない場合でも、アップグレード時にサブジェクトレジストリ構成ファイルへの入力求められる。
SATS-29920	Data Privacy Management の再起動によって失敗したリモートエージェントスキャンジョブを再開すると、再開されたジョブが重複する pageId が見つかりましたというエラーで失敗する。
SATS-23096	失敗したスキャンジョブを再開すると、再開したスキャンも失敗する。
SATS-21335	Data Privacy Management をインストールすると、Informatica Data Quality で ID 照合が失敗する。
SATS-18677	特定のページへのアクセスに対してユーザー特権が検証されない。
SATS-18676	エラスティック検索で、認証に基づいて、予期したとおりにユーザーが制限されない。
SATS-18675	カラムをソートすると SQL インジェクションエラーが記録される。

実装された拡張

以下の表に実装された拡張要求を示します。

問題	説明
SATS-38058	Percolator、Augmenter、UBA Manager などの YARN アプリケーション用のコンテナの数を変更できます。
SATS-37685	複数のスキーマ名の入力時に、フィールドサイズの制限がなくなりました。

ドメインの修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
PLAT-28317	Informatica Administrator で、LDAP ユーザー認証を使用してジョブをスケジュールすると、パスワードがプレーンテキスト形式で表示される。
PLAT-27903	十分なモデルリポジトリサービス権限なしで監視モデルリポジトリサービスを設定すると、ドメインプロセスでデータリークが発生する。

Enterprise Data Catalog の修正された問題と実装された拡張要求（10.5）

修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
PLAT-27713	Informatica Administrator、Enterprise Data Catalog、および Catalog Administrator で、LDAP ユーザーの姓が 2 回表示される。
MDX-20034	DataStage プロジェクト内のジョブ名が 60 文字を超える場合にスキャンが失敗する。
MDX-20008	詳細スキャナアプリケーションの「接続レジストリ」セクションに、垂直スクロールバーが表示されない。1 つのホストにつき、データベースエントリは 10 個までしか表示されません。
EIC-52778	パーティション化された Parquet ファイルを含む Amazon S3 リソースを実行すると、リソースはパーティション化された Parquet ファイルから複数のフォルダのメタデータを抽出できず、次のエラーメッセージが表示される: 指定されたキーは存在しません。(サービス: Amazon S3、ステータスコード: 404、エラーコード: NoSuchKey)
EIC-51828	SAML SSO を使用して認証されたユーザーが、カタログ検索を実行するたびに Enterprise Data Catalog にログインするよう求められる。
EIC-51688	Informatica Axon リソースを使用して Axon 7.1 からオブジェクトを抽出すると、SAP HANA 属性タイプの親名が表示されない。
EIC-51124	高優先度モードで複数のリソースに対してプロファイルを実行すると、プロファイルジョブによる一部のリソースのプロファイル結果の取得が失敗する。
EIC-50570	Business Glossary リソースによる、データソースからのカテゴリ属性の抽出が失敗する
EIC-49935	表形式のアセットにアクセスし、「[カラム]」タブからカラムのフィルタ処理を実行すると、予期したとおりにカラムが返されない。
EIC-49764	データドメインの「[リレーション]」タブに Salesforce オブジェクトを表示できない。
EIC-49510	管理者以外のユーザーが、Enterprise Data Catalog で Snowflake リソースの値の頻度の結果を表示できない。

問題	説明
EIC-48307	タイプが【分類】 および【ビジネス用語】 であるカスタム属性値に対して、【アクティブなビジネス用語の表示】 オプションが有効になっている場合に、【選択】 ウィンドウにビジネス用語が表示されない。
EIC-48018	Enterprise Data Catalog プラグインで、Axon Glossary および Business Glossary の用語の【概要】 タブにある【関連するテクニカルアセット】 および【分類されたアセット】 セクションにアセットが表示されない。
EIC-47453	Enterprise Data Catalog バージョン 10.4.1.2 で、リソースを再度実行すると Tableau リソース用に設定されたエンリッチメントが失われる。
EIC-46164	LONG VARCHAR データ型のテーブルを含む IBM DB2 リソースを実行すると、リソースが失敗する。
EIC-46116	【検索フィルタ設定】 タブでカスタム属性の順序を並べ替えて変更を保存した後に、検索結果ページでは順序が保持されていない。
EIC-43623	各リソーススキャンジョブの監視ワークスペースに多数のタスクがロードされると、Catalog Administrator がハングする。
EIC-43274	【最初の N 行】 オプションまたは【ランダムな N 行】 オプションを指定して Amazon Redshift リソースを設定すると、リソースのプロファイルジョブが失敗する。
EIC-42780	次のソース接続に対するデータプロビジョニングタスクが失敗する。 <ul style="list-style-type: none"> - Amazon S3 - Azure データウェアハウス - Teradata - JDBC Oracle - Amazon Redshift - Azure Blob - Salesforce 次のターゲット接続に対するデータプロビジョニングタスクが失敗する。 <ul style="list-style-type: none"> - Amazon S3 - Azure データウェアハウス - Teradata - JDBC Oracle - QlikView
EIC-42452	リソースの編集時に、特定のスケジュールの名前が【スケジュール】 タブに空白で表示される。また、ジョブをスケジュールした後に、ジョブ名が未定義と表示される。
EIC-42006	アプリケーションコンポーネントとパッケージの名前が同じである場合、SAP S/4HANA リソースで、SAP S/4HANA アプリケーションコンポーネントおよびパッケージからメタデータが抽出されない。
EIC-41937	リソースのパージを行うと、バージョン 10.4.0 で行った場合よりも長い時間がかかる。これは、カタログの安定性を改善するために実行される追加の整合性チェックによるものです。
EIC-41642	Informatica Cloud Service リソースで、実行時に作成されたデータソースターゲットが誤って抽出される。また、ターゲットファイル名に 2 つのポンド記号 (##) が含まれる。
EIC-40333	プロセス定義の質問、レビュー、評価などのセクションをカタログで表示できない。
EIC-40094	MicroStrategy リソースに追加された機能と安定性の改善により、リソースのロードに以前よりも時間がかかる。

問題	説明
EIC-39610	アセットをフォローしているユーザーが削除されると、ドメインログに予期しないエラーメッセージが生成される。
EIC-28783	アセットデータのインポート中にインポートファイルから拒否されたデータドメインを削除した後でも、拒否されたデータドメインが「推測済み」の状態が表示される。
EIC-28104	以前のバージョンからアップグレードすると、選択していたカスタム属性が表示されない。
EIC-28094	階層を含んでいたカスタム属性が階層順に表示されない。
EIC-27726	「[カラム] タブの表形式のアセットに対して、[ビジネスタイトル] カラムに誤った値が含まれる。
EIC-27364	DDL スクリプトを使用してビューを作成した場合、Amazon Redshift リソースのビューのプロファイリングジョブが失敗する。
EIC-25919	ソースファイルパスに 255 文字を超える文字を含んだリソースを実行すると、プロファイリングジョブが失敗し、次のエラーメッセージが表示される:「[ORA-12899: カラム"C02647306"."IDP_RESOURCE_VIEW"."PROPERTY6"に対して値が大きすぎます (実際の値: 349、最大値: 255)」
EIC-25738	LDAP ユーザーとして Enterprise Data Catalog にログインすると、プライマリキー制約タイプのオブジェクトを表示できない。
EIC-25560	アセットの説明の編集時に「キャンセル」をクリックすると、元の説明が削除される。
EIC-25056	Erwin エンティティが、物理名ではなく論理名を使用して Teradata テーブルにリンクされる。
EIC-23178	参照リソースのデータ所有者として割り当てられたユーザーに、参照リソースに対する権限が付与されない。
EIC-22391	リソースをエクスポートすると、リソースからテーブルまたはカラムにプロパゲートされた部門、データ所有者、データスチュワード、対象事項の専門家などのカスタム属性値が、エクスポートファイルに追加されない。
EIC-21846	Microsoft SQL Server データベースリソースでプロファイルを実行すると、プロファイリングジョブでカスタムデータ型 <code>nvarchar(max)</code> および <code>varchar(max)</code> のカラムがスキップされる。この問題は、「 メタデータのロード設定 」ページで ODBC をソース接続タイプとして指定した場合に発生します。
EIC-18854	ビジネス用語の関連付けを含む.csv ファイルをリソースのインポートオプションを使用してカタログにインポートした後に、リソース内の複数のテーブルに属するカラムに関連付けられたビジネス用語を表示できない。
EIC-16536	Axon Glossary 内のオブジェクトへのリンクがある、キリル文字を含んだテーブルを作成しようするとエラーが発生する。
EIC-14126	説明に 255 文字を超える文字を含んだリソースが、「 ライブラリ 」ワークスペースに表示されない。

問題	説明
DAA-630	Data Asset Analytics で、 [ユーザー導入] ダッシュボードタブに誤ったアクティブユーザー数が表示される。この問題は、異なるセキュリティドメインのユーザーが同じ名前を共有している場合に発生します。
DAA-2320	1 つのスキャンイベントに対して、重複する値が Data Asset Analytics リポジトリに表示される。

実装された拡張

以下の表に実装された拡張要求を示します。

問題	説明
MDX-20125	SSIS スキャナで Salesforce をデータソースとして使用できます。
EIC-49074	Enterprise Data Catalog に、SAP BW/4HANA リソースおよび SAP BW リソースの次の属性を表示できます。 <ul style="list-style-type: none"> - クエリの最終実行時刻 - ADSO の最終リフレッシュ時間
EIC-49065	Secure Network Communications (SNC) 接続を使用して SAP サーバーに接続するように、以下のリソースを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> - SAP S/4HANA - SAP BW - SAP BW/4HANA
EIC-42911	SAML SSO を使用して認証されたユーザーは、外部ポータルから Enterprise Data Catalog 内のアセットを検索できます。
EIC-41306	Amazon S3 リソースに次の拡張機能が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> - Scalify RING などの Amazon S3 互換ストレージからメタデータを抽出できます。 - 一時的なセッショントークンを使用して、Amazon S3 データソースに接続してメタデータを抽出できます。
EIC-28415	ビューおよびストアドプロシージャの SQL ステートメントが、より読みやすいフォーマットに変更されました。
EIC-28111	OAuth 認証を使用して Salesforce データソースに接続するように、Salesforce リソースを設定できます。

Enterprise Data Preparation の修正された問題 (10.5)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IDL-17725	データの準備中に 2 つのテーブルを結合しようとする、結合の提案にかかる時間が 2 分を超え、レコード数が多い場合はパフォーマンスがさらに低下する。
IDL-17620	XLS ファイル形式を使用してデータをアップロードしようとする、アップロードが次のエラーで失敗する: 処理に失敗しました: 入力が無効な Excel ファイルではありません。
IDL-16972	[リネージュと影響] ビューでフィルタを適用すると、[保存済み] タブに文字が正しく表示されない。
IDL-16953	CSV 形式でデータをダウンロードすると、ダウンロードしたファイルに double および timestamp データ型の値が正しく表示されない。
IDL-16936	50 件を超えるワークシートのデータを準備すると、パフォーマンスが低下する。

例外管理修正された問題 (10.5)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IDQ-9523	例外管理タスクの [検索] フィールドに値を入力しても、入力した値と一致するレコード値がタスクに自動的に表示されない。
IDQ-9458	例外管理タスクの現在のページで、1 つまたは複数の NULL 値の検索や別の値への置き換えができない。

インストールおよびアップグレード修正された問題 (10.5)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
PLAT-27400	プロパティファイル内の KRB5_FILE_LOCATION が、ワーカーノードで使用されない。この問題は、サイレントインストールおよびワーカーノードのインストールを実行した場合に発生します。
BDM-33472	カスタムのキーストアとトラストストアを使用した 10.2 HF2 から 10.4 へのサイレントインストールのアップグレードを行うと、接続タイムアウトの問題が発生する。

Informatica Analyst の解消された制限事項と実装された拡張要求 (10.5)

修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
ANT-2109	関連するデータ統合サービスをオペレーティングシステムプロファイルで設定すると、Hive オブジェクトのインポートプロセス中に、Analyst ツールで Hive プロキシユーザー情報が追加されない。

実装された拡張要求

以下の表に実装された拡張要求を示します。

問題	説明
IDQ-9837	バージョン 10.5 以降では、Analyst ツールは参照テーブルまたはルール仕様で設定した表示の設定を記憶します。例えば、参照テーブルのカラムの幅のサイズを変更すると、Analyst ツールは、設定した幅を次にテーブルを表示するときまで記憶します。 表示の設定は、セッション間およびブラウザ間で保持されます。Analyst ツールにログインするユーザーごとに、独自の設定を行うことができます。

マッピングおよびワークフローの修正された問題（10.5）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
OCON-23778	SQL トランスフォーメーションの SQL クエリに開き括弧「(」または閉じ括弧「)」が含まれている場合に、Oracle マッピングが失敗する。
MWF-1784	infacmd から実行したワークフローが失敗した場合に、infacmd によって有用な情報がログに書き込まれない。
IDQ-9160	一致トランスフォーメーションを含む Web サービスマッピングが失敗した場合に、一致トランスフォーメーションが消費したメモリが解放されないことがある。

Metadata Manager の修正された問題と実装された拡張要求（10.5）

修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
MM-5331	Microsoft SQL Server Analysis (SSAS) および Reporting Services (SSRS) リソースをインポートすると、Analysis Services のテーブル形式モデルのオブジェクトが抽出されず、Analysis Services フォルダが空になる。

実装された拡張

以下の表に実装された拡張要求を示します。

問題	説明
MM-5586	バージョン 10.5 以降では、Metadata Manager は Azure Microsoft SQL Server をリポジトリとしてサポートします。

PowerCenter の修正された問題と実装された拡張要求（10.5）

修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
PLAT-26483	リポジトリからログを取得するように PowerCenter リポジトリサービスのデータベース設定プロパティを設定できない。
CORE-9248	接続の作成またはコピーの権限がない状態でデプロイを実行すると、デプロイしたグループに、コピーされたアプリケーション、FTP、およびローダー接続が含まれる。
CORE-9077	ターゲット、ソース、トランスフォーメーション、およびマッピングオブジェクトのショートカットのデータリネージュが Designer に表示されない。
CORE-9071	Workflow Monitor が、wcursor.cpp の 337 行で予期せずシャットダウンする。
CORE-9007	制御ファイルでソースラベルを使用すると、pmrep deploydeploymentgroup コマンドが応答しない。
CORE-8918	Workflow Monitor が、dreplug.cpp の 8327 行の予期しない条件で、予期せずシャットダウンする。
CORE-8773	PowerCenter 統合サービスが、バージョン 10.1 で予期せずシャットダウンする。
CORE-8708	セッションが正常に完了しても、pmdtm のプロセス ID が解放されない。
CORE-8527	PowerCenter の式トランスフォーメーションで、空の入力文字列に対して MD5 関数が誤った値を返す。
CORE-8211	Web Service Hub が、PowerCenter リポジトリサービスへの接続時に指定したクライアント回復タイムアウトを使用しない。
CORE-8138	PowerCenter リポジトリサービスが、tpcworker.cpp の 3154 行の予期しない条件で、予期せずシャットダウンする。
CORE-7932	バージョン管理されていない PowerCenter リポジトリが、アップグレード後に、バージョン管理された PowerCenter リポジトリになる。
CORE-7685	すべてのユーザーが書き込み可能な cgmd ファイルが、Tomcat ログで断続的に生成される。

問題	説明
CORE-7513	pmrep ObjectImport コマンドを使用してインポートしようとする、予期しない条件でコマンドが失敗する。
CORE-7471	ユーザーによってワークフローが中止され、その後、別のユーザーによってリカバリされると、PowerCenter 統合サービスが予期せず終了する。
CORE-6891	ワークフローをキャンセルすると、PowerCenter リポジトリサービスが予期せずシャットダウンする。
CORE-6472	セッションの失敗をトラブルシューティングするためのエラーコードのないタスクインスタンスのプロセスが開始されない。
CORE-5811	DefaultDateFormat 初期化の同期の問題により、PowerCenter 統合サービスが予期せずシャットダウンする。
CORE-5651	バージョン管理されたリポジトリで、デプロイメント後に Web サービスワークフローが無効な状態になり、ワークフローに統合サービスが指定されていないというエラーが表示される。
CORE-4988	pmrep addtodeploymentgroup コマンドによって、デプロイメントグループに対するソースおよびターゲットのショートカットの追加ができない。

実装された拡張

以下の表に実装された拡張要求を示します。

問題	説明
CORE-6768	リレーショナルデータベース接続で、接続文字列とデータベースサーバー名のパラメータ化ができます。

プロファイルおよびスコアカード修正された問題（10.5）

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IDE-5172	ドメインに複数のデータ統合サービスが含まれている場合に、Developer tool がデフォルトのデータ統合サービスでプロファイルを実行できない。
IDE-4907	Developer tool でプロファイルを実行するリソースを選択できない。
IDE-4893	コマンドラインインタフェースの Spark ランタイム環境でプロファイルを実行すると、プロファイルジョブが失敗する。
IDE-4795	Databricks ソースでのすべての行のプロファイリングが、SQL 例外で失敗する。 回避策: 【最初の N 行】 オプションまたは【ランダムな N 行】 オプションを使用して、上限を引き上げます。

問題	説明
IDE-4587	異なるノードで実行されている Analyst ツールからプロファイルをエクスポートした場合、およびデータ統合サービスでオペレーティングシステムのプロファイルが可能な場合に、「失敗 - ファイルなし」というエラーでプロファイルのエクスポートが失敗する。
IDE-4583	特定のメトリックのドリルダウンが失敗し、次のエラーメッセージが表示される: 格納コレクション内のすべてのオブジェクトをそのオブジェクト自体に追加することはできません
IDE-4513	メトリックに関連付けられたフィルタ名を編集した後に、フィルタが失敗し、次のエラーメッセージが表示される: com.informatica.imf.icore.exception.UnresolvedProxyException: [IMF_1026] ゲッターメソッドまたはセッターメソッドにプロキシオブジェクトでアクセスすることはできません。
IDE-4501	Spark エンジンでプロファイルを実行した後に、スコアカードをドリルダウンできない。 回避策: スコアカードのすべてのカラムとルールを選択します。
IDE-431	ドメインに複数のデータ統合サービスが含まれている場合に、Developer tool が、設定済みの特定のデータ統合サービスでプロファイルを実行できない。
IDE-2897	Analyst ツールがスコアカードを開く際に、通常よりも時間がかかる。
IDE-2829	Informatica 9.6.1 HotFix2 から 10.1.1 にアップグレードした後に、一部のスコアカードオブジェクトにルールが表示されない。
IDE-2500	次のいずれかの条件に該当する場合、論理データオブジェクトのカラムプロファイルの実行が失敗する。 <ul style="list-style-type: none"> - プッシュダウンの最適化が、論理データオブジェクトに対して失敗する。この問題は、IBM DB2 および Oracle データソースを除くデータソースで作成する論理データオブジェクトに対して発生します。 - データベースの照合が latin1_general_bin に設定されない。
IDE-2491	各メトリックグループの行数の合計ではなく、すべてのメトリックスコアの平均に基づいて、メトリックグループスコアが計算される。
IDE-2440	スコアカードを作成してスコアカードにカラムを追加すると、プロファイル実行からの有効または無効なカラムの値の頻度マトリックスが Developer tool に表示されない。
IDE-2337	データ統合サービスとアナリストサービスが別々のノードで実行されている場合に、プロファイルオブジェクトをエクスポートできない。
IDE-1700	コマンドラインインタフェースからスコアカードを実行すると、スコアカードの電子メール通知メッセージに、Analyst ツールのスコアカードオブジェクトへの誤ったリンクが表示される。
IDE-1668	スコアカードサマリの結果を Excel シートにエクスポートすると、有効な値とともに無効な値がエクスポートされる。

Test Data Management 修正された問題 (10.5)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
TDM-8409	ルールをインポートするとエラーが発生する。
TDM-7557	Test Data Manager で 150 個のフィールドを含むデータセットを開くと、パフォーマンスの問題が発生する。
TDM-29185	日付データ型のパラメータを含むワークフローを生成できない。
TDM-27882	Developer tool で個別に実行すると機能する一意の置換マスキングマッピングが、Developer tool のアプリケーションにデプロイした場合に失敗する。
TDM-27774	グループにテーブルを追加するステップに、[説明] フィールドが表示されない。
TDM-27746	ワークフローが実行に失敗し、メモリ割り当てエラーが生成される。
TDM-26061	[制約の無効化] ステップでプランが失敗する。
TDM-25956	インデックス制約と外部キー制約の名前が同じである場合に、メタデータのインポートジョブが失敗する。
TDM-25007	220 個を超えるカラムを含むデータセットテーブルの [テーブル] タブを開くと、Google Chrome および Internet Explorer ブラウザが最大 15 分間応答しなくなり、その後予期せず閉じる。

サードパーティ製品の修正済みの問題 (10.5)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
OCON-25985	Sqoop マッピングを使用して、アンダースコア (" ") で始まるカラムを持つ SQL Server テーブルからデータをインポートすると、インポートが失敗する。 Sqoop チケットの参照番号: SQOOP-2561
IIS-3381	Hortonworks HDP 3.1 クラスタで、Spark エンジンが文字列データ型をバイナリデータ型に誤って変換する。 Hortonworks チケットの参照番号: 270
BDM-37135	Databricks Spark エンジンがマッピングを実行すると、マッピングが次のエラーで失敗する場合があります。 org.apache.spark.sql.catalyst.errors.package\$TreeNodeException: Binding attribute, tree Spark チケットの参照番号: SPARK-31620
BDM-35513	Spark エンジンが DD_DELETE 条件のアップデートストラテジトランスフォーメーションを含む EMR 6.0 クラスタでマッピングを実行すると、マッピングが次のようなエラーで失敗する: "java.io.IOException: 含まれているバケットファイルとは異なるバケット ID を持つ破損したレコードが見つかりました。バケット ID 0 が必要ですが、バケット ID 1 が見つかりました" Apache チケットの番号: HIVE-20719

問題	説明
BDM-35133	Spark エンジンが EMR 6.0 クラスタで DD_DELETE 条件を使用した更新方式トランスフォーマーションを含むマッピングを実行すると、マッピングが次のようなエラーで失敗する。 java.io.IOException: 含まれているバケットファイルとは異なるバケット ID を持つ破損したレコードが見つかりました! バケット ID 0 が必要ですが、バケット ID 1 が見つかりました Apache チケットの番号: HIVE-20719
BDM-33967	Databricks クラスタで、同時マッピング処理がサポートされない。極めて限定的な並行処理が実行される場合もありますが、並行処理のサポートは複数の要因に依存するため、予測は困難です。
BDM-26204	バージョン 2.4.7 以前の Apache Spark SQL で、DECIMAL(n,n) のデータ値 (0) が NULL として処理される。
BDM-23420	デフォルト値に Datetime データを含んだソータートランスフォーマーションを使用するマッピングを MapR クラスタで実行すると、マッピングでデータが変更される。 MapR チケットの参照番号: 00072094
BDM-14422	Hive テーブルのカラムが重複している場合にマッピングが失敗し、Spark エンジンでエラーが発生する。 SPARK-23519

10.5 の既知の問題

この節では、10.5 で見つかった既知の問題を示します。

Data Engineering Integration の既知の問題 (10.5)

以下の表に 10.5 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
OCON-27886	Spark エンジンが Cloudera CDH バージョン 6.3.4 で Sqoop マッピングを実行して、日付データ型のデータを Greenplum ターゲットに書き込んだ場合、マッピングが次のエラーで失敗する。 org.postgresql.util.PSQLException: ERROR: date out of range: "444001-10-28 BC +05:30"
PLAT-28258	無効な資格情報を使用した管理者コンソールからの SAML ログイン試行が、予期したとおりに失敗した場合でも、ネイティブセキュリティドメインからのログイン試行として表示される。この試行は、空のセキュリティドメインからのログイン試行としてログに表示される必要があります。
BDM-37934	Spark モードで複合ファイルソースにマッピングを実行すると、次の両方の条件に当てはまる場合に、マッピングでターゲットファイルにデータが書き込まれない。 <ul style="list-style-type: none"> - クラスタの Hadoop ディストリビューションが Cloudera CDH バージョン 6.3.4 である。 - 複合ファイルソースに、バイナリまたはカスタム入力ファイル形式がある。

問題	説明
BDM-37712	ユーザーアカウントが含まれていないドメインからコマンドを実行すると、filemanager ユーティリティが失敗して、権限エラーが発生する。
BDM-37568	SQL データサービスを作成し、デプロイ済みの SQLDS コマンドを使用して SQL クエリのマッピングを生成しようとする、次のようなエラーメッセージが表示される。 コマンド[prepareMapping]がエラー[[SQLCMN_10034]で失敗しました: SQL データサービスに対する SQL の実行中に、SQL サービスモジュールで次のエラーが発生しました: [com.informatica.ds.sql.jdbcdrv.PreparedStatementImpl を com.informatica.ds.sql.jdbcdrv.StatementImpl にキャストできません]]
BDM-37351	INSERT、UPDATE、または DELETE のいずれかの操作を実行するアップデイトストラテジトランスフォーメーションを含んだマッピングを Spark エンジンが実行し、重複する行がソースに含まれている場合に、「Merge ステートメントのカーディナリティ違反」エラーでマッピングが失敗する。 回避策: [Hive マージの使用] オプションを無効にします。
BDM-37300	ファイル名に特殊文字を使用すると、削除コマンドが失敗する。
BDM-37158	ドメイン内に多くの接続がある場合、権限と接続のチェックに 30 分以上かかる。
BDM-37148	監査付きのマッピングを実行して監査結果に JDBC V2 接続を使用すると、データ統合サービスで結果がデータベースに書き込まれず、次の例外がログに記録される。 SEVERE: Data integration service failed to create DTM instance ... Caused by: java.lang.IllegalArgumentException: Not relational: com.informatica.adapter.jdbc_v2.connection.JDBC_V2ConnectInfo
BDM-37084	Microsoft Windows でファイル名またはパスに Unicode 文字を使用すると、filemanager コマンドが失敗する。
BDM-37081	名前を変更した場合、または既存のターゲットディレクトリにファイルを移動した場合、filemanager で既存のターゲットディレクトリの下に新しいサブディレクトリが作成される。この問題は、ADLS Gen 1 ストレージを使用している場合に発生します。
BDM-37009	Spark エンジンが Cloudera CDP Public Cloud クラスタを使用して外部の Hive ターゲットに書き込むマッピングを実行するときに、ターゲットスキーマストラテジとして RETAIN を選択すると、マッピングが次のエラーで失敗する。 SEVERE: The Integration Service failed to execute the mapping ... Caused by: java.lang.IllegalArgumentException: Wrong FS 回避策: Hive ターゲットの詳細プロパティで 【ターゲットテーブルの切り詰め】 を有効にします。
BDM-36951	filemanager ユーティリティログに、「警告」および「情報」という不正なログトレースレベルが表示される。ログトレースレベルは、「警告」の場合は「嚴重」、「情報」の場合は「適当」と表示されます。

問題	説明
BDM-36841	<p>複数の出力グループを含むトランスフォーメーションのダウンストリームでデータプレビューを実行すると、データプレビューが失敗し、次のメッセージが表示される。</p> <p>次のエラーのため、Spark エンジンでデータプレビューを実行できません: このトランスフォーメーションではマッピングをプレビューできません。追加情報がログに記録されている可能性があります。</p>
BDM-36262	<p>Databricks で、Delta ターゲットを含むストリーミングマッピングを高精度モードで実行すると、指定した精度値がデフォルト値 (18) でない場合に、互換性のない精度での decimal 型のマージに失敗しましたというエラーでマッピングが失敗する。</p> <p>回避策: 正しい精度値を指定します。</p>

Data Engineering Streaming の既知の問題 (10.5)

以下の表に 10.5 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
IIS-5459	<p>ストリーミングマッピングを実行しても、次の条件に該当する場合にキャッシュの更新が行われない。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Hive データが Optimized Row Columnar (ORC) または Parquet ファイル形式で保存されている。 - キャッシュのリフレッシュ間隔が 0 に設定されている。
IIS-5430	<p>HDP で、ストリーミングマッピングを実行すると、管理対象テーブルのキャッシュのリフレッシュが行われない。</p> <p>回避策: 管理対象テーブルの代わりに外部テーブルを使用します。</p>
IIS-5219	<p>フィルタトランスフォーメーションを伴うルックアップトランスフォーメーションを含んだストリーミングマッピングを実行すると、プッシュダウンの最適化が失敗する。</p>
IIS-4973	<p>Amazon EMR バージョン 5.29 セキュアクラスタで Kafka ソースと Amazon S3 ターゲットを使用してストリーミングマッピングを実行すると、Amazon S3 ターゲットファイルのロールオーバーが Access Denied エラーで失敗する。</p>
IIS-4946	<p>Kafka ソースと Cassandra ターゲットを含んだストリーミングマッピングを実行すると、【Cassandra の詳細プロパティ】 ウィンドウで 【ターゲットテーブルの切り詰め】 オプションが有効になっていても設定が反映されない。</p> <p>回避策: マッピングを実行する前に、truncate table コマンドを使用します。</p>

Data Privacy Management 既知の問題（10.5）

以下の表に 10.5 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
SATS-40546	IBM DB2 for z/OS データストアの保護ジョブが、Test Data Management でのワークフローの実行中に失敗する。
SATS-40440	Azure SQL Database データストアの保護ジョブが、必要なセキュア JDBC パラメータがないため、Test Data Management で失敗する。 回避策: 次のプロパティを JDBC URL の末尾に追加して、ジョブを実行します: DataIntegrityLevel=accepted;CryptoProtocolVersion=TLSv1.2
SATS-40426	PostgreSQL データベース上に Data Privacy Management リポジトリを作成する場合に、セキュリティポリシーを作成できない。

ドメインの既知の問題（10.5）

以下の表に 10.5 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
PLAT-26364	IPv6 対応マシンでホストされたドメインを使用している場合に、Informatica Administrator のヘルプアイコンをクリックすると、ホストのヘルプではなくローカルのヘルプが表示される。

Enterprise Data Catalog の既知の問題（10.5）

以下の表に 10.5 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
EIC-54115	Informatica クラスタ検証ユーティリティで、ゲートウェイホスト、データノード、および処理ノードに指定した完全修飾ドメイン名が検証されない。
EIC-53410	マルチノードクラスタで Enterprise Data Catalog バージョン 10.5 にアップグレードした後にリソースを再実行すると、データソースにオブジェクト ID の変更が含まれている場合、重複するオブジェクトがカタログに表示される。
EIC-53600	generate_csr.sh スクリプトで生成された証明書署名要求（CSR）に、CSR 内の識別名（DN）のハードコードされた値が含まれる。ハードコードされた値は OU=Informatica,O=Informatica,L=RedwoodCity,S=California,C=US です。 回避策: generate_csr.sh スクリプトを変更し、次のサンプルに示すように DN を更新します: dName=\$dName'OU=InformaticaClient,O=Informatica,L=RedwoodCity,S=California,C=US'。 O、L、S、および C の値は、要件に基づいて変更できます。OU のデフォルト値を変更することはできません。
EIC-53598	Enterprise Data Catalog バージョン 10.5 にアップグレードすると、アップグレード前に作成したリソースおよびアセットのカスタム属性を表示できない。

問題	説明
EIC-53403	Informatica クラスタサービスを使用してサービスを開始すると、MongoDB サービスと Nomad サービスが失敗し、サービスに対する権限エラーがログに表示される。回避策: 次の手順を実行します。 1. 次のディレクトリに 757 権限を割り当てます。 - /usr/local/bin/mongo - /usr/local/bin/nomad 2. Informatica クラスタサービスを再起動します。
EIC-53401	IBM Netezza リソースを実行してから JDBC ドライバの jar ファイルを Informatica クラスタ上の<INFA_HOME>/services/CatalogService/ScannerJars/externalDependencies/NetezzaScanner ディレクトリにコピーすると、ファイルのアップロード中にリソースが NullPointerException で失敗する。
EIC-53376	Apache Solr サービスが SSL 対応である場合に、Apache Solr UI にコレクション情報が表示されない。 回避策: ブラウザから古い証明書を削除し、新しい証明書をインポートします。
EIC-53357	Informatica クラスタサービスで SSL が有効である場合に、REST API を使用してカタログをバックアップすると、類似性プロファイリングのバックアップが失敗する。 回避策: - 次のファイルに chmod 600 権限を割り当てます。 \$INFA_KEYSTORE/\$ICS_SERVICE_NAME/client_certs/infa_privkey.pem \$INFA_KEYSTORE/\$ICS_SERVICE_NAME/cluster_certs/infa_privkey.pem - バックアップ REST API を使用してカタログをバックアップします。
EIC-53349	カスタム SSL 証明書を生成する generate_certs.sh スクリプトで、PEM ファイルが入力として受け入れられない。また、このスクリプトで、CA の証明書チェーン内の一部の証明書が抽出されない。
EIC-53347	Enterprise Data Catalog バージョン 10.5 でリソースを再度実行すると、Tableau リソース用に設定されたエンリッチメントが失われる。 回避策: リソースを再度実行する前に、エンリッチメントをバックアップします。
EIC-53335	Informatica Administrator を使用して Informatica クラスタサービスを作成すると、指定したゲートウェイホスト名が完全修飾ドメイン名であるかどうかウィザードで検証されない。
EIC-53333	Informatica ドメインが RHEL 6.x にインストールされている場合に、infacmd のバックアップおよびリストアのコマンドが失敗する。問題を解決するには、グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
EIC-53323	SSLHandshakeException エラーでカタログのバックアップが失敗したときに、エラーの原因となったファイルの詳細が表示されない。
EIC-53321	REST API を使用したカタログのバックアップが次のエラーで失敗する: org.apache.http.conn.HttpHostConnectException: Connect to。
EIC-53320	マルチノードの Enterprise Data Catalog デプロイメントで mergeContents コマンドを実行すると、指定された設定では MRS に接続できませんでしたというエラーでコマンドが失敗する。 回避策: 次のファイルで類似性コンテンツの移行を無効にします: \$INFA_HOME/services/CatalogService/Binaries/MigrationModuleConfigurations.properties。migrateContents コマンドを再度実行します。
EIC-53284	アセットの変更通知を.csv ファイルにダウンロードすると、20 件の通知のみがファイルに含まれる。

問題	説明
EIC-53261	Informatica クラスタサービスのカスタムプロパティ <code>IcsCustomOptions.ihs.enable.diskcheck=</code> を <code>false</code> に設定した後に、ディスク容量の検証が無効にならない。
EIC-53253	参照オブジェクトを Data Quality リソースから .csv ファイルにエクスポートすると、エクスポートした参照オブジェクトが .csv ファイルに表示されない。
EIC-53239	マルチノードのデプロイメントでカタログサービスを有効にすると、サービスに次のエラーが表示される: カタログサービスに接続するための有効な証明書が見つかりません。このエラーは、Informatica ドメインをホストするノードで Informatica クラスタサービスを設定し、別のノードでカタログサービスを設定した場合に発生します。
EIC-53232	マルチノードドメイン環境で Informatica クラスタサービスを有効化できない。 回避策: バックアップノードを Informatica クラスタサービスに追加します。
EIC-53230	Microsoft Internet Explorer ブラウザを使用して Catalog Administrator にアクセスすると、次のウォークスルーが起動しない。 <ul style="list-style-type: none"> - リソースの作成 - カスタム属性の作成 - データドメインの作成
EIC-53226	SSL に対してサービスが有効になっているマルチノードデプロイメントで、LDM の <code>mergeContents</code> コマンドが失敗する。
EIC-53182	SSAS/SSRS/Advanced Objects [Procedure Definition] にアイコンが表示されない。 回避策: <code>InstalledLocation/services/CatalogService/AdvancedScannersApplication/app/Utils/scanners/icons</code> から <code>InstalledLocation/services/CatalogService/LdmCatalog/res/img/scanners</code> ディレクトリに、アイコンを手動でコピーします。
EIC-53138	カスタム SSL 証明書を使用すると MongoDB サービスが失敗し、次のエラーが発生する: SSL ピア証明書の検証に失敗しました: パスの長さの制約を超えました。サービスの検証では、カスタム SSL 証明書のパス長がゼロ以外の値であるかどうかは検証されません。
EIC-53127	詳細スキャナの使用時に、接続のデータベース接続キー名にカンマが含まれていると、対応する参照オブジェクトが Enterprise Data Catalog で生成されない。
EIC-53125	以前のバージョンからアップグレードすると、ユーザー定義のストップワードが移行されない。
EIC-53124	HDFS と Informatica Platform 参照リソースの間に接続を割り当てると、[接続割り当て] ページに接続 ID がスキーマ名として表示される。
EIC-53077	ネイティブの Snowflake リソースと比較した場合に、Enterprise Data Catalog で高度な Snowflake リソースに対する誤ったソースデータ型が表示される。
EIC-53056	カスタムプロパティ <code>LdmCustomOptions.ingest.reindex.progress.log.level</code> をカタログサービスに割り当てた後に、このカスタムプロパティを追加または削除すると、LDM.log に <code>NullPointerException</code> エラーが表示される。
EIC-53050	カタログサービスにカスタムプロパティ <code>LdmCustomOptions.ldm.logs.debug.packages</code> を設定すると、LDM.log ファイルにデバッグログが表示される。カタログサービスを再起動すると、デバッグログは LDM.log に表示されなくなります。
EIC-53020	<code>migrateContents</code> コマンドが失敗する。 回避策: コマンドで <code>-resume</code> オプションを使用して、データの移行を続行します。

問題	説明
EIC-52979	REST API を使用したカタログのバックアップが、 <code>java.lang.ArrayIndexOutOfBoundsException</code> エラーで失敗する。
EIC-52763	バージョン 8 以外の Java バージョンを使用している場合に、 <code>jar</code> ファイルが無効または破損しているという <code>export.jar</code> エラーでエクスポートユーティリティが失敗する。 回避策: <code>\$INFA_HOME/java/bin/java -jar export.jar export</code> を実行するか、デフォルトのシステム Java を Java 8 に変更します。
EIC-52731	アセットのデータ所有者とデータスチュワードに別々のユーザーが割り当てられている場合に、アセットを認証するオプションが使用できない。
EIC-52706	検索結果ページで結果を表示するときに、ページネーション制御を使用して別のページに移動してからリソース名フィルタを適用すると、結果が表示されない。
EIC-52703	外部依存関係のアプローチを使用して IBM Netezza、Teradata などのリレーショナルリソースを実行すると、リソーススキャンが失敗する。 回避策: JDBC ドライバの <code>jar</code> ファイルを <code><INFA_HOME>/services/catalogservice/scannerjars/externaldependencies</code> ディレクトリにコピーした後に、カタログサービスを再起動します。
EIC-52563	Enterprise Data Catalog で、Axon リソースの削除された用語集の子が 【次を含む】 タブに誤って表示される
EIC-52376	カスタム属性を編集すると、ページのロードに長い時間がかかる。
EIC-52328	リネージュと影響の図のコンパクトビューに、カラムレベルのリネージュのデータ要素の数が誤って表示される。
EIC-52288	Safari ブラウザを使用して Enterprise Data Catalog にアクセスし、カラムの概要のウォークスルーを起動すると、ステップを表示してフローを進めることができない。 回避策: ページを更新してステップを表示します。
EIC-52249	検索結果ページから Enterprise Data Catalog のホームページに移動したときに URL が変わらない場合、ウォークスルーが起動しない。
EIC-51835	【ビジネス用語関連付け】 設定で、255 文字を超える名前を持った用語集を選択してからリソースを実行すると、リソースのビジネス用語の関連付けタスクが失敗し、ログファイルに次のメッセージが表示される: <code>java.util.concurrent.ExecutionException: java.lang.IllegalArgumentException</code> 。
EIC-51258	Azure MySQL リソースでプロファイルを実行すると、Enterprise Data Catalog が <code>varchar(500)</code> データ型のカラムのプロファイリングに失敗する。
EIC-50925	リソースの 【変更概要】 タブに、アセットがランダムな順序で表示される。
EIC-50831	Amazon S3、Azure Data Lake Store、および Microsoft Azure Blob Storage の各リソースを高優先度モードで実行すると、ソースメタデータとデータ検出ジョブが失敗する。
EIC-50430	モデルの不整合によってデータオブジェクトが Enterprise Data Catalog にロードされなかった場合でも、詳細スキャナのログにエラーが報告されない。
EIC-49746	事前検証ユーティリティで、エラスティック検索や Spark などの Data Privacy Management サービスの検証が実行されない。
EIC-48446	X.509 ロールベースの認証が、MongoDB サービスでサポートされない。

問題	説明
MDX-2019 7	詳細スキャナのアセットに対して、計算に含まれる式の検索ができない。
MDX-2092 5	Snowflake リソースにデータベースをまたがるビューが含まれている場合、そのビューが、リソースの【概要】ページに未解決のビューとして表示される。ビューのシステム属性に次のエラーメッセージが表示されます: エラー: 不明なテーブル: [SNOWFLAKE]。 回避策: リソースの接続レジストリに、データベースエントリを手動で追加します。
MDX-2059 6	詳細スキャナの COBOL リソースに対して、複数レコードファイルのリネージュをフラットファイルからフィールドレベルに拡張できない。 回避策: フラットファイルフィールドオブジェクトからリネージュを直接開始します。
MDX-2099 7	接続が自動で割り当てられた場合、接続の割り当てが進行中であっても、詳細スキャナに【完了】というステータスが表示される。
EIC-52652	Enterprise Data Catalog で接続が割り当てられた COBOL 詳細スキャナリソースに対して、ターゲットアセットのリネージュの選択肢に一部のリソースが表示されない。代わりに、関連する Enterprise Data Catalog リソースのリネージュがすべて表示される。
MDX-2101 7	詳細スキャナで Unix オペレーティングシステムが使用されている場合、Microsoft SQL Server Reporting Services サーバーの Web サービスへの直接接続が確立されない。Informatica が提供するエクスポートは、Microsoft Windows で実行可能な形式です。 回避策: 1. SCANNERS_HOME/utils/ssrs フォルダから、ssrs-exporter-*.exe ファイルを Microsoft Windows マシンにコピーします。 2. SSRS レポートを XML ファイルにエクスポートします。 3. エクスポートしたファイルを Enterprise Data Catalog の詳細スキャナ Unix サーバーに転送します。 4. エクスポートした XML ファイルを設定で使用するには、[SSRS ソース] パラメータを【ファイル】に設定し、[入力ファイル] パラメータをエクスポートしたファイルに設定します。
MDX-2176 0	詳細スキャナツールで、接続レジストリのエントリを追加および編集できてしまう。これらの操作を実行する場合、【詳細設定】プロパティでは次のオプションがサポートされていないため、選択することはできません。 - edc.resourceNameSchemaMapping - edc.fileConnectionMode - edc.linkingMode - edc.resourceName

Enterprise Data Preparation の既知の問題 (10.5)

以下の表に 10.5 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
IDL-18291	データの準備中にデータをアップロードするときに、アップロードボタンが使用できない。 回避策: Informatica Administrator でクラスタ設定を作成するときに、少なくとも 1 つの Hive 接続を追加し、【リソース管理】ページで Hive リソースを追加します。

マッピングおよびワークフローの既知の問題（10.5）

以下の表に 10.5 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
IDQ-9850	<p>データ品質トランスフォーメーションを含んだマッピングを Databricks Spark で実行すると、データ統合サービスでエラーが発生する。</p> <p>回避策: データ統合サービスで次のカスタムプロパティを設定します:</p> <ul style="list-style-type: none">- <i>ExecutionContextOptions.databricks.enable.infa.libs.autoinstall</i>。Informatica ライブラリをクラスタにインストールします。プロパティを true に設定します。 ライブラリインストーラは、クラスタで最初にマッピングを実行するときに実行されます。単一のマッピングを実行してインストーラをアクティブ化します。- <i>ExecutionContextOptions.AV_DATABRICKS_DATA_LOCATION</i>。アドレスバリデータトランスフォーメーションが読み取るアドレス参照データファイルの場所を特定します。- <i>ExecutionContextOptions.DATABRICKS_POPULATION_FILE_LOCATION</i>。ID 分析用にトランスフォーメーションを設定するときに一致トランスフォーメーションが読み取る ID ポピュレーションデータファイルの場所を指定します。 <p>設定する場所は、クラスタード上のデータ統合サービスが読み取り可能な場所である必要があります。例えば、Databricks ファイルシステムでの場所は次のように設定します。</p> <p>dbfs/av</p> <p>dbfs/population</p>

PowerCenter の既知の問題（10.5）

以下の表に 10.5 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
PLAT-28112	<p>CURL 7.68 で Kerberos にログインしているユーザーに対して、PowerCenter リポジトリサービスを有効化できない。</p>
CORE-9452	<p>Kerberos 認証を使用するドメインがあり、PostgreSQL ODBC 接続を使用してリポジトリデータベースを設定済みである場合、次のエラーが表示された後に PowerCenter リポジトリが再起動する。</p> <p>[リポジトリサービス[CRSKERBEROS_100]への接続に失敗しました。] リポジトリへのアクセス中にエラーが発生しました[リポジトリサービス[CRSKERBEROS_100]への接続に失敗しました。] [03/04/2021 20:52:11- [REP_55102] リポジトリサービス[CRSKERBEROS_100]への接続に失敗しました。] [03/04/2021 20:52:11- [REP_55066] リポジトリサービス CRSKERBEROS_100 への接続が失われました。現在の操作のステータスが不明です。]</p> <p>この問題は、コンテンツがない状態で Kerberos -u モードでリポジトリに接続した場合、またはリポジトリのコンテンツを削除した場合に発生します。</p> <p>回避策: Kerberos ドメインではネイティブの Postgres データベース接続を使用し、非 Kerberos ドメインでは ODBC 接続を使用します。</p>

プロファイルおよびスコアカード既知の問題（10.5）

以下の表に 10.5 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
IDE-5203	IBM DB2 でプロファイリングウェアハウスが設定されている場合に、エクスポートされたファイルにルールカラムのデータ型が表示されない。
IDE-4888	ランダムサンプリングが、ネイティブおよび Blaze のランタイム環境の Hive データソースのすべての行で実行される。

サードパーティ製品に関する既知の問題（10.5）

以下の表に 10.5 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
OCON-27441	Azure SQL データベースに Microsoft SQL Server 接続を使用している場合に、Web サービスの LDO オブジェクト用にデータオブジェクトキャッシングを有効にすると、Web サービス要求が失敗する。 進行状況チケット番号: 00912400
BDM-36509	Spark エンジンが、Hive ソースおよび Unicode 文字を含む階層データが含まれたターゲットを使用してマッピングを実行すると、マッピングが次のエラーで失敗する。 <code>org.apache.spark.SparkException: Cannot recognize hive type string</code> Unicode 文字を含んだ Hive 構造を Spark SQL が読み取れない場合に、マッピングが失敗します。
BDM-34066	Cloudera から直接クラスタ設定をインポートして関連する接続を作成しようとする、インポートウィザードでの Hive 接続の作成が失敗し、次のエラーが表示される: [EDR_1069]関連するクラスタ構成[CCC_AC]にプロパティ[hive, metastore, uris]が含まれないため、[HIVE_cco_ac]接続のオプション[connectstring]を解決できませんでした。 回避策: 1. アーカイブファイルから設定をインポートして、クラスタ設定を作成します。 2. Hive 接続を編集して、計算クラスタを指すようにメタデータ接続文字列とデータアクセス接続文字列を修正します。 Cloudera チケット番号: OPSAPS-57696
MRS-2309	モデルリポジトリサービスのコンテンツを作成すると、PostgreSQL データベースのログファイルに次の警告メッセージが記録される。 SET TRANSACTION は、トランザクションブロックでのみ使用できます

インストールおよびアップグレード既知の問題（10.5）

以下の表に 10.5 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
PLAT-28416	Enterprise Data Preparation をインストールすると、インストーラでモデルリポジトリサービスとデータ統合サービスのチェックが実行され、サービスがすでに有効になっている場合は、インストール後に次の警告が表示される。インストールの状態: 警告 回避策: この警告メッセージは無視してください。

累積的な既知の問題

この節では、これまでのリリースから引き継がれた既知の問題を示します。

Data Engineering Integration の既知の問題（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
BDM-36874	Spark エンジンが Cloudera CDP Public Cloud クラスタでマッピングを実行すると、Data Lake クラスタ上のディレクトリとの間で読み取りまたは書き込みを行った場合にマッピングが失敗する。 マッピングが失敗して、次のエラーが表示されます: SEVERE: [LDTM_4872] HDFS source directory [/BDM_Automation/targetData/BZIP/m_all_compression_write_sparkMode] is not found. Specify a valid directory and try again.
BDM-36873	Cloudera CDP Public Cloud クラスタでマッピングを実行すると、Data Lake クラスタ上の相対パスとの間で読み取りまたは書き込みを行った場合にマッピングが失敗する。 マッピングが失敗して、次のエラーが表示されます: UNK_66008 File [hdfs://ns1/user/<impersonation_user>/SparkRelativePathDir/_tmp_infa_8365285398800525369_HDFS_RelativeSourceTarget.out/HDFS_RelativeSourceTarget.out/attempt_20210104065255_0000_m_000000_3] could not be opened because of the following error: [java.lang.IllegalArgumentException: Wrong FS: hdfs://ns1/user/<impersonation_user>/SparkRelativePathDir/_tmp_infa_8365285398800525369_HDFS_RelativeSourceTarget.out/HDFS_RelativeSourceTarget.out/attempt_20210104065255_0000_m_000000_3,
BDM-35764	Cloudera CDP Public Cloud クラスタで実行されているアプリケーションの集計ログを取得できない。
BDM-35089	Spark エンジンでルックアップトランスフォーメーションを含むマッピングが実行されているときに、Source_Rows と Target_Rows の数が誤って表示される場合がある。 回避策: Blaze エンジンでマッピングを実行します。

問題	説明
BDM-34065	<p>Cloudera で設定した計算クラスタからクラスタ設定をインポートして、関連する接続を作成しようとする、作成プロセスで Hive 接続の作成が失敗し、次のエラーが表示される。</p> <p>[EDR_1069] Failed to resolve the option [connectString] of connection [HIVE_cco_ac] because the associated cluster configuration [CCO_AC] does not contain the property [hive.metastore.uris].</p> <p>回避策:</p> <ul style="list-style-type: none"> - アーカイブファイルからのインポートオプションを使用してクラスタ構成を作成します。 - Hive 接続の場合、メタデータ接続文字列とデータアクセス接続文字列の JDBC 接続を修正して、計算クラスタを指すようにします。
BDM-33922	<p>Kerberos 対応ドメインで、次の条件に該当する場合に、Spark エンジンで偽装ユーザーを使用して実行されているマッピングが失敗する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - クラスタステージングディレクトリが暗号化ゾーンにある。 - 偽装ユーザーが Active Directory ユーザーのプロキシユーザーとして構成されている。 - プロキシユーザー、つまりマッピング偽装ユーザーが暗号化ゾーンの DECRYPT 特権を持つ。 - Active Directory ユーザーが、暗号化ゾーンの DECRYPT 特権を持たない。 - Hadoop ステージングユーザーが、マッピング偽装ユーザーに設定されている。 <p>回避策: 暗号化ゾーンの DECRYPT 特権を Active Directory ユーザーに付与するか、暗号化ゾーンの外部にあるクラスタステージングディレクトリを使用します。例えば、/tmp ディレクトリなどを使用します。</p>
BDM-33585	<p>Blaze エンジンで実行されているマッピングが HDFS の暗号化ゾーンに対して読み取りまたは書き込みを行うと、マッピングが失敗する。</p> <p>回避策: Blaze でマッピングを実行するユーザーが偽装ユーザーと同一となるように設定します。別のユーザーを使用するには、Blaze ユーザーに DECRYPT 特権を付与します。</p>

Data Engineering Streaming の既知の問題（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
IIS-5180	Cloudera CDP バージョン 7.2 でストリーミングマッピングを実行すると、 【モニタ】 の 【サマリ統計】 ビューにジョブの詳細が表示されない。
IIS-4973	Amazon EMR バージョン 5.29 セキュアクラスタで Kafka ソースと Amazon S3 ターゲットを使用してストリーミングマッピングを実行すると、Amazon S3 ターゲットファイルのロールオーバーがアクセスが拒否されましたというエラーで失敗する。

プロファイルおよびスコアカードの既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
IDE-4899	Hive ソースでカラムプロファイルを実行すると、プロファイルにフィルタが設定されていてランダムなサンプルで実行される場合に、Spark エンジンでプロファイルの実行が失敗する。
IDE-4887	Spark エンジンで 【すべてのプロファイルにグローバル設定を使用する】 オプションを選択してエンタープライズ検出プロファイルを実行すると、プロファイルの実行が失敗する。
IDE-4798	次の条件に該当する場合に、エンタープライズデータ検出が失敗する。 1. Analyst ツールで、エンタープライズ検出プロファイル名を作成している。 2. データソースでエンタープライズデータ検出を実行している。 3. 同じ名前で別のエンタープライズ検出プロファイルを作成している。 回避策: エンタープライズ検出のプロファイル名を変更します。
IDE-4766	データ統合サービスが複数のマシンで同時に実行されている場合に、スコアカードの電子メール通知が受信できない。
IDE-4509	プロファイル結果をデフォルトディレクトリ以外のディレクトリにエクスポートすると、エクスポートされた Excel シートの値カラムが空になる。
IDE-4370	Spark エンジンでプロファイルを実行すると、Analyst ツールでデータドメインの検出結果が表示されない。

サードパーティ製品に関する既知の問題（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
BDM-35662	Spark エンジンバージョン 3 が、タイプ「map」のキーを持つ MAP 関数を含んだマッピングの実行に失敗する。 Spark チケット番号: SPARK-26071
BDM-35661	次の条件に該当する場合に、Spark エンジンが Cloudera CDP Public Cloud クラスタでのマッピングの実行に失敗する。 - マッピングの読み取り元が、カスタムクエリで作成された Hive ソースである。 - クエリでカラム名に算術演算が使用されている。例えば、INT_1 内のすべての値に 100 を加算するには、次のクエリを使用します: SELECT INT_1 + 100 FROM Hive_table。 ログファイルに次の例外が表示される場合があります: java.lang.reflect.InvocationTargetException ... 原因: org.apache.spark.sql.AnalysisException: 指定された次の入力カラムの '<カラム名>' を解決できません: [<カラム名>] 回避策: SQL オーバーライドクエリで、クエリで算術演算を使用するカラムのエイリアス名を指定します。例えば、SELECT INT_1 + 100 as <エイリアス名> FROM Hive_table と指定します。 Cloudera チケット番号: CDPD-3293

問題	説明
BDM-34608 BDM-34615	<p>Spark エンジンが ESP 非対応の Hadoop クラスタで Hive WASBS ソースとフラットファイルターゲットを使用してマッピングを実行すると、想定される偽装ユーザー以外のユーザー用に個別のステージングディレクトリが作成される。</p> <p>ESP 非対応の HDInsight 4.0 クラスタ用の回避策: クラスタで次のプロパティを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「Hive ユーザーではなくエンドユーザーとして実行」(doAs) を TRUE に設定します。 - hive.metastore.execute.setugi を有効にします。 <p>ESP 対応の HDInsight 4.0 クラスタ用の回避策: 「Hive ユーザーではなくエンドユーザーとして実行」(doAs) を FALSE に設定します。</p> <p>Microsoft チケット番号: 120072723000878</p>
BDM-34066	<p>Cloudera CDH 計算クラスタ設定をクラスタから直接インポートすると、クラスタ設定に hive-site.xml ファイルが含まれない。</p> <p>回避策: Hadoop クラスタからすべての *-site.xml ファイルを .zip ファイルとしてダウンロードし、アーカイブファイルから計算クラスタ設定をインポートします。</p> <p>Cloudera チケット: 697586</p>
BDM-33828	<p>Spark エンジンが Cloudera CDP クラスタでマッピングを実行すると、次の SPARK_1003 エラーでマッピングが失敗する。</p> <p>MetaException (メッセージ:権限が拒否されました: ユーザー [<偽装ユーザー>] には [default] に対する [SELECT] 特権がありません)</p> <p>回避策: Ranger で、Spark クエリを実行するすべてのユーザーのデフォルトデータベースに SELECT 特権を追加します。</p> <p>Cloudera チケット: CDPD-12622</p> <p>詳細については、Cloudera 7.1.1 Release Notes を参照してください。</p>
BDM-28598	<p>同等の精度と位取りで設定されている 10 進型ポートで Spark エンジンがゼロの入力値を処理するときに、エンジンがその値をデータオーバーフローとして扱い、Hortonworks HDP 3.1 クラスタで戻り値が NULL になる。</p> <p>Cloudera チケットの参照番号: 635063</p>
BDM-25513	<p>Spark エンジンで実行される、Hive ACID ソース/ターゲットテーブルを使用するマッピングがある場合、サマリ統計ビューに mapping job のスループット統計がまったく反映されない。</p> <p>Cloudera チケットの参照番号: 00225986</p>
BDM-23104	<p>Hadoop ディストリビューションが MapR のときに、Spark エンジンがバケット化された Hive ターゲットにデータを書き込めない。</p> <p>MapR の事例番号: 00074338</p>
BDM-10455	<p>Tez で Hive を実行エンジンとして使用すると、バケット化されたテーブルへの挿入が失敗することがある。この問題は、テーブルが Hive ACID テーブルで、挿入前に削除操作が実行されている場合に起こりやすい。</p> <p>Apache チケットの参照番号: TEZ-3814</p>
BDM-4674	<p>Hive ターゲットに複数のプライマリーキーがある場合、アップデートストラテジトランスフォーメーションのマッピングが実行時に失敗する。</p> <p>Apache Hive チケットの参照番号: HIVE-19911</p>

10.5 に統合された緊急バグ修正

Informatica では、以前のリリースの緊急修正（EBF）をバージョン 10.5 に統合しました。これらの EBF では、以前のリリースで見つかった問題に対する修正を提供しています。

バージョン 10.5 に統合された EBF の一覧については、次の Informatica Knowledge Base の記事を参照してください: https://knowledge.informatica.com/s/article/FAQ-What-are-the-Emergency-Bug-Fixes-EBFs-merged-into-Informatica-10-5?language=en_US